

## 文末詞の対照研究

井上 優 (麗澤大学)  
masinoue@reitaku-u.ac.jp

### 1. はじめに

- ・対照研究においては、比較対照によって見出された類似や相違が何を意味するかを見極めることが重要だが、文末詞の場合は比較対照の勘どころの見極めが難しいことが多い。
- ・次の二つのトピックについて「比較対照の勘どころ」について考える。
  - ①標準語「ねえ」と富山県井波方言「ネー」
  - ②日本語「よ」と中国語の“啊”，日本語「だろう」と中国語“吧”

### 2. 標準語「ねえ」と富山県井波方言「ネー」

- ・現象1：井波方言「ネー↓」（あるいは「ネー↓↑」）は、標準語「ねえ」と同じように用いられるほかに、「よねえ」に近い意味でも用いられる（井上 2006）。

- (1) (友人と桜を見ながら)  
キレーヤネー↓。(きれいだねえ。)
- (2) (友人の苦労話を聞いて)  
ソリヤ 大変ヤッタネー↓。(それは大変だったねえ。)
- (3) (聞き手がビールばかり飲むのを見て)  
アンタ, ホンマ ビール 好きナガヤネー↓。  
(あなた, 本当にビールが好きなんだねえ。)
- (4) チョッコ イッテクルネー↓。(ちょっと行ってくるね。)
- (5) 富士山チャ キレーナガヤロネー↓。(富士山ってきれいなんだろうねえ。)
- (6) アノ人 ホンマ ガンコヤサカイネー↓。(あの人, 本当にがんこだからねえ。)
- (7) (心から共感するという気持ちで)  
イヤ, ホンマ ソーヤ (チャ) ネー↓。(いや, 本当にそうですよねえ。)
- (8) A: 井上サンチャ ホンマ ガンコナガ (イチャ) ネー↓。  
(井上さんって本当にがんこなんだよねえ/#がんこなんだねえ。)  
B: (隣にいるCに)  
エ, ソンナコト ナイ (チャ) ネー↓。  
(え, そんなことないよねえ/#そんなことないねえ。)
- (9) (おかしいなあという気持ちで)  
アレ? サッキ, 井上サン, ココニ オツテヤッタ (チャ) ネー↓。  
(あれ? さっき, 井上さん, ここにいらしたよねえ/#いらしたねえ。)

- ・現象2：標準語で「ねえ」が使えないところで「ネー」が使える（井上2006）。

(10) (遠くにある信号を指さして)

アスコニ 信号 アルナイケネー↓。(あそこに信号があるじゃないか(\*ねえ。))

(11) サキ 食ベトロマイケネー↓。(先に食べていようじゃないか(\*ねえ。))

(12) サキ 行ットツチャネー↓。(先に行ってるよ(\*ねえ。))

- ・井波方言「ネー」は、標準語「ねえ」よりも念押し・同意要求・共感の気持ちが強い。  
→井波方言「ネー」は、標準語「ねえ」よりも、感動詞「ねえ」に近い意味で使える。

(13) a. (「確かに…」という気持ちで)

まあ, [それはそうだねえ]。/ マー, [ソリヤ ソーヤネー]。

b. (「当然」という気持ちで)

うん, [それはそうだよ。] [ねえ。] / [ソリヤ ソーヤチャ。] [ネー。]

c. (「当然」という気持ちで)

うん, [それはそうだよ] [ねえ]。/ [ソリヤ ソーヤ (チャ)] [ネー]。

- ・中国語の付加疑問文との関係

(14) a. 你是不是算错了? (計算を間違えたんじゃないですか?)

(→この判断で正しいかどうかわからない。)

b. 你看, 你算错了, 是不是? (ほら、計算を間違えている。そうでしょう?)

(→この判断で正しいか否か、はっきりせよ。)

- ・現象3：標準語「ねえ」、井波方言「ネー」はともに、聞き手に一方的に感情移入して、聞き手に与えた苦痛や負担を自分で感じてみせる「疑似共感用法」があるが、標準語の場合は聞き手が年少者の場合に限られる。(→現象1, 現象2とどう関係?)

(15) (重い荷物を運んでくれた聞き手に「申し訳なかったね」という気持ちで)

アンタ, 重カッタネー↓。申シ訳 ナカッタネー↓。

(あなた, 重かったでしょう (#重かったねえ)。申し訳なかったねえ。)

(16) (何かの拍子でひじが子どもの頭にぶつかって、子どもが泣き出した)

あ, 痛かったねえ。ごめんね。

- ・井波方言の文末詞の意味は、全般的に標準語の文末詞よりも具体的。  
→井波方言の文末詞の意味は、標準語と比べて、感動詞に近いと考えればよい。

①チャ：これは既定事項である。考えるまでもない。これ以外ない。→「うん。」と自己確認。

(17) ソリヤ ソーヤチャ。(そりゃそうだよ。(考えるまでもない。))

(18) (「賞味期限がすぎているけど大丈夫?」と聞かれて)

ナン ドモナイチャ。(大丈夫だよ。(よけいな心配をするな。))

- (19) ワカッタチャ。イクチャ。イキヤ イーガヤロ。  
 (わかったよ。行くよ。行けばいいんだろう。(行くしかない。))
- (20) オラ アンマ ネットランガイチャ。  
 ((実は)私, あんまり寝てないんだよ。)[既成事実]

②ワ：自分が見る(知る)かぎりではこうだ。(個人的見解) →「うん。」とその場で判断。

③ジャ：よく見たら(考えたら)正しくはこうだ。(認識修正) →「違ってた！」

- (21) (「賞味期限がすぎてるけど大丈夫?」と聞かれて)
- ナン ドモナイワ。(私が(食べて)みたかぎりでは)大丈夫だよ。)
  - ア, ナン ドモナイジャ。(あ,(食べてみたら意外に)大丈夫だよ。)
- (22) (会議の開始時刻を聞かれて)
- タシカ 3時ワ。(私の記憶では)確か三時だよ。)
  - タシカ 3時ジャ。(よく考えてみたら)確か三時だよ。)

④ゼ：思っていたのと違う。どういうこと? →「あれ？」

- (23) (さっきまでこの場にあった辞書がない)
- A：アレ? 辞書 ナイゼ↑。(あれ?辞書がないぞ↑。)
- B：エ? サッキマデ アッタガイゼ↑。(え?さっきまであったんだよ↑。)
- (24) (聞き手がめずらしく背広を着てきたのを見て)
- アレ? アンタ メズラシーゼ↑。(あれ?あなた,めずらしいじゃない。)

⑤ガ：これくらいわからないの? →「おいおい！」

- (25) アンタ, ソノ計算 チゴトルガ。(あなた,その計算は違っているよ。)
- (26) ソンナモン オラデモ シットルガ。(そんなの,私でも知っているよ。)
- (27) アリヤ, コンナトコニ アッタガ。(あら,こんなところにあったよ。)

### 3. 日本語「よ」と中国語の“啊”, 日本語「だろう」と中国語“吧”

①「注意喚起」を表す「平叙文+よ」,「平叙文+啊」

日本語記述文法研究会(2003:242)

「よ」は,その文が表す内容を,聞き手が知っているべき情報として示すという伝達態度を表す。

「よ」の機能が最も端的に表れるのは,聞き手が気づいていない事態に対して注意を向けさせようとする文に付加される場合である。

・あ,切符が落ちました {よ/?φ}。

・[運転者に]赤信号だ {よ/?φ}。ちゃんと前を向いて運転してよ。

このような例では,聞き手が知っているべき情報を示し,注意を促すという「よ」の存在は必須的である。「よ」のない文は,話し手が気がついたことを独話的に口にしたというだけで,聞き手に注意を促そうという機能が感じられない。

朱德熙(1982) (杉村・木村訳 1995:289)

平叙文と命令文に用いられる“啊”はつねに、相手の注意を喚起したり、あるいは注意を与えようとするムードを帯びている。たとえば次のような例である。

上岁数的人可不能吃那么多糖啊! [年とった者がそんなにたくさん飴を食べてはいけませんよ!]

我又不是故意的啊! [私だってなにもわざとじゃありませんよ!]

你吃啊! [きみ食べるんだよ]

(28) (ハンカチを落としたことに気づかずに歩いていく人を呼びとめようとして)

a. ハンカチが落ちました {よ↑/??φ}。

b. 你的手绢掉 {了/啦}。(啦:了+啊)

(29) (ハンカチを拾って落とした人のところに行き)

a. ハンカチが落ちました {よ↑/??φ}。

b. 你的手绢掉 {了/#啦}。

(30) (相手の耳元で小声で)

a. チャックがあいてます {よ↑/φ}。

b. 拉链开着 {呢/#哪}。

(31) (料理の注文の際に)

a. ここの餃子はおいしいですよ。あなたも注文したら?

b. 这个餐厅的饺子特别好吃 {φ/#啊}。你也要点儿吧。

・日本語「Pよ」: 聞き手に対して「Pであることに注意せよ」と指示する。

・中国語“P啊”: 話し手自身が情報Pに注意を向けている。

・確認要求「だろう」: ①「わかるよね?」「そうですよね?」という情報共有確認。

②「わからないの? 再確認せよ」という聞き手に対する確認指示。

・確認要求“吧”:  
「わかるよね?」「そうですよね?」という情報共有確認のみ。聞き手に対する確認指示の意味はない。

(32) a. (ほら) 私は四川の人間でしょう? だから辛いものが食べられる。

b. 我是四川人吧, 所以我能吃辣。 (黄 2012)

(34) a. おいしいでしょう! (ね!)

b. 好吃吧!

(35) 「先輩, どこ行くんですか?」

「男と散歩する趣味はねえよ。仕事に決まっているだろ。」

我可没兴趣跟男的散步。当然是去工作 (??吧)。 (黄 2012)

井上優(2006)「モダリティ」『シリーズ方言学2 方言の文法』岩波書店

黄琬婷(2012)「“吧”と“だろう”の認識確認機能—発話状況と共有認識との関連—」『中国語学』259, 日本中国語学会

日本語記述文法研究会(2003)『現代日本語文法4 第8部 モダリティ』くろしお出版

朱德熙(1981)《语法讲义》商务印书馆 (杉村博文・木村英樹訳 1995『文法講義 朱德熙教授の中国語文法要説』白帝社)